

羅臼湖部会の現地踏査（第 4 回、7 / 19）の結果について

1. 参加者（敬称略）

- 羅臼町・知床世界自然遺産協議会（佐々木）
- 知床ガイド協議会（桜井）
- 根釧東部森林管理署（梶岡）
- 釧路自然環境事務所（柳澤、野川、三宅、後藤）
- 専修大学北海道短期大学（小林）
- ニュージェック

2. 踏査のルート

冬道の入り口から二の沼、三の沼の付替ルートおよび羅臼湖展望デッキ周辺

3. 踏査ルートの概要

- A：二の沼の東側のハイマツ帯を通過し、沢を避けて斜面上部の林内から冬道の入口へ抜けるルート。林内はササ丈が低く、比較的歩きやすい。
- B：二の沼の階段部分の付け替え候補。最初に小沢を通過するが、簡単にわたることが可能。途中ササ丈は高いがハイマツ等の樹木は少ない。
- C：三の沼の展望台から北側の現道を目指すルート。展望台から直接西側斜面に到達し、沼のすぐ横を通るイメージ。
- D：最終展望台南側のササ原を通り羅臼湖へ至るルート。既存の最終展望台までの木道を南側に移すイメージ。
- E：C の入口から A の西側を通り、冬道入口に至るルート。比較的歩きやすいダケカンバ林から低地に下ると、湿性植物が生える場所もある。

4. 主な議論

- ・二の沼の木道からは貴重な雪田植生が見られるので残して欲しい。特にエゾコザクラが見られるのは貴重である。
- ・雪解け時期、二の沼の木道の下は水浸しになる。腐敗しないよう土台は木材ではないほうがいいのでは。
- ・ルート A の二の沼東側のハイマツ帯は、斜面の中間を抜けることも上部を抜けることも困難なため、二の沼に最も近いササ原に抜けるようにルートを設定するのがいいのでは。
- ・ルート B は二の沼の階段部分と同様に斜面を登るため、階段部分と同様に浸食が起きる可能性がある。慎重な検討が必要である。一の沼の付近から大きく迂回することも考えてはどうか。

- 三の沼展望台に至る現在のルートは、湿原植生に影響のない範囲内で休憩スペースとして残してはどうか。
- 三の沼展望台から西側斜面へは木道を設置すべき。沼のすぐ横は傾斜も少なく、ルートとして適していると思われる。
- 最終展望台にのびるストレートな木道は、羅臼湖木道の醍醐味の一つでもあり、景観上や達成感を得るためにも残して欲しい。また、そういった声も多い。
- ルートDは地盤が弱そうな印象があるため、木道の設置が必要となるだろう。
- 南側へもう少し大きく迂回するのも付替ルート案としては良いと思われる。大きく迂回することにより、設置する橋が小さくできると考えられる。
- ルートEは低地に湿性植物もあり、春先も雪が残るため、慎重な検討が必要。

状況写真



ルートA 入り口付近のササ帯



ルートA 途中から見える二の沼



ルートA 二の沼付近はハイマツ帯が広がる



ルートA 二の沼に最も近い場所はササ原



ルートB 入口(二の沼側)



ルートB 中間付近

状況写真



ルート D 大きく迂回した際の出口。



ルート E 中間付近。ササ原とダケカンバの林内は比較的歩きやすい。



ルート E 中間付近。比較的低い場所は湿性植物が生えている。



第四回 羅臼湖踏査ルート(2011.7.19 実施)

